

## 多文化共生についてのアンケート結果

本県には、39,366人の外国人が住んでいます。(令和5年12月末現在:住民基本台帳人口)総人口に占める外国人住民の割合は2.79%で、県民の約36人に1人が外国人ということになります。

県では、滋賀県多文化共生推進プラン(第2次改定版)を策定し、「滋賀県で暮らし、働き、学ぶすべての人が、国籍や民族などの違いにかかわらず、相互に人権と個性を尊重しながら、多様性を生かして活躍できる多文化共生の地域社会」を目指し、多文化共生施策に取り組んでいます。

多文化共生の推進にあたり、県民の皆様の多文化共生についての意識や外国人県民等(※)との関わり現状について把握することを目的としてアンケート調査を実施しました。

※外国人県民等:国籍、民族にかかわらず、母語や文化、宗教、生活習慣など、日本以外の背景をもつ県民

★調査時期:令和6年6月

★対象者:県政モニター300人

★回答数:267人(回収率89.0%)

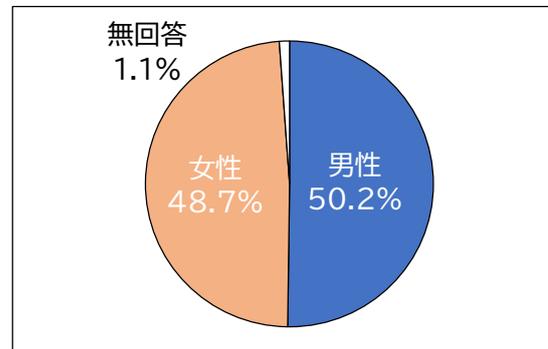
★担当課:総合企画部 国際課

(※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。)

### 【属性】

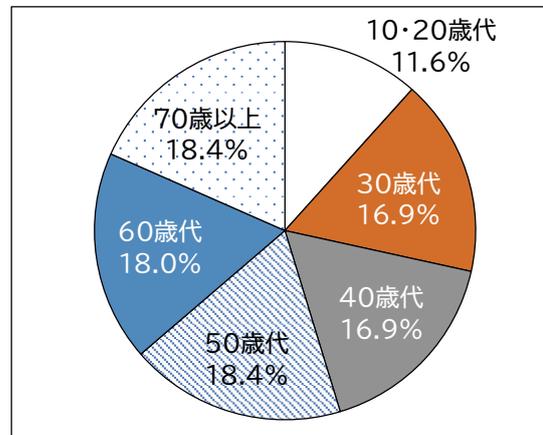
#### ◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	134	50.2%
女性	130	48.7%
無回答	3	1.1%
合計	267	100.0%



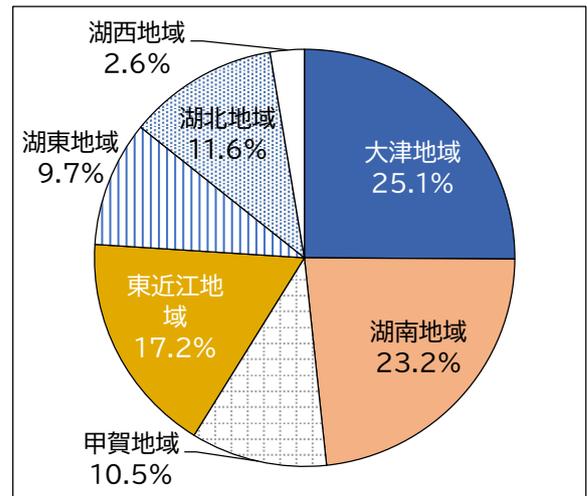
#### ◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	31	11.6
30歳代	45	16.9
40歳代	45	16.9
50歳代	49	18.4
60歳代	48	18.0
70歳以上	49	18.4
合計	267	100.0



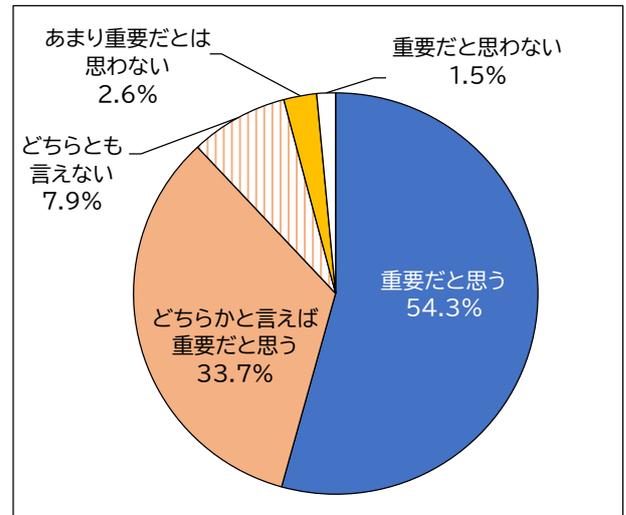
◆地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	67	25.1
湖南地域	62	23.2
甲賀地域	28	10.5
東近江地域	46	17.2
湖東地域	26	9.7
湖北地域	31	11.6
湖西地域	7	2.6
合計	267	100.0



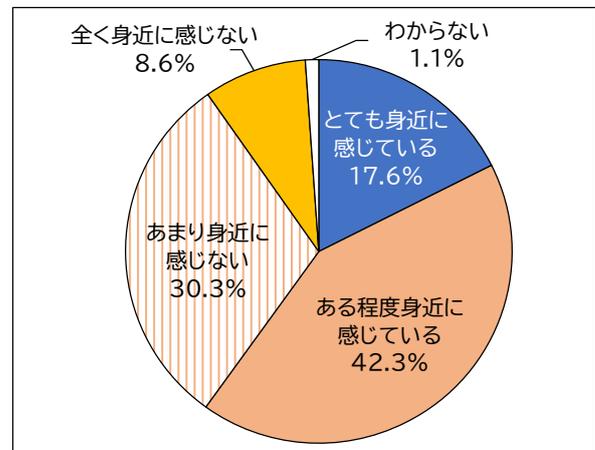
問1 「国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく。」多文化共生社会の実現について、あなたはどのように思いますか。(n=267)

項目	人数(人)	割合(%)
重要だと思う	145	54.3
どちらかと言えば重要だと思う	90	33.7
どちらとも言えない	21	7.9
あまり重要だとは思わない	7	2.6
重要だと思わない	4	1.5
合計	267	100.0



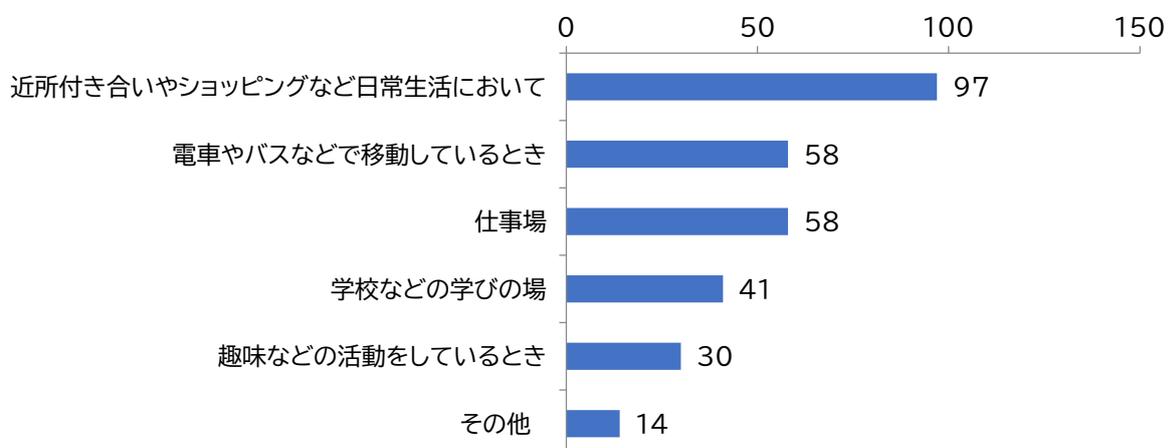
問2 あなたは、普段生活をしていて、外国人県民等の存在を身近に感じますか。  
次の中から当てはまるものを選択してください。(n=267)

項目	人数(人)	割合(%)
とても身近に感じている	47	17.6
ある程度身近に感じている	113	42.3
あまり身近に感じない	81	30.3
全く身近に感じない	23	8.6
わからない	3	1.1
合計	267	100.0



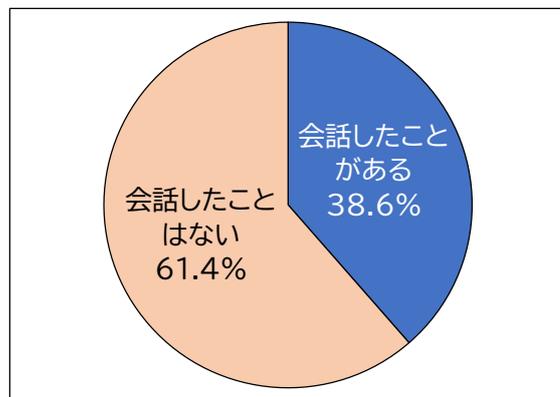
問3 問2で「とても身近に感じている」または「ある程度身近に感じている」を選択された方におたずねします。どのような場面で外国人県民等の存在を身近に感じますか。  
(回答チェックはいくつでも。n=160)

項目	人数(人)	割合(%)
近所付き合いやショッピングなど日常生活において	97	60.6
電車やバスなどで移動しているとき	58	36.3
仕事場	58	36.3
学校などの学びの場	41	25.6
趣味などの活動をしているとき	30	18.8
その他	14	8.8



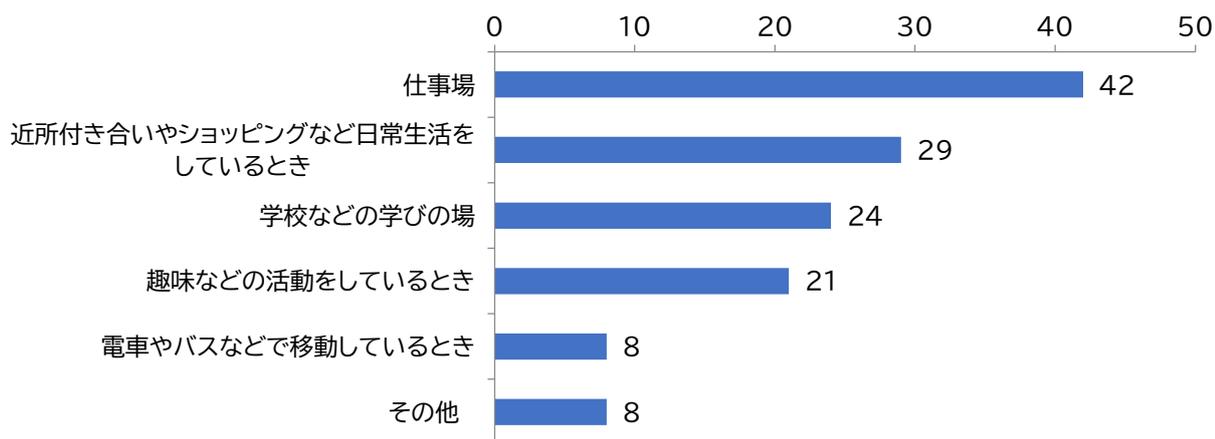
問4 あなたは過去3ヶ月間に、外国人県民等と会話(単なる“こんにちは”以上)をしたことはありますか。(n=267)

項目	人数(人)	割合(%)
会話したことがある	103	38.6
会話したことはない	164	61.4
合計	267	100.0



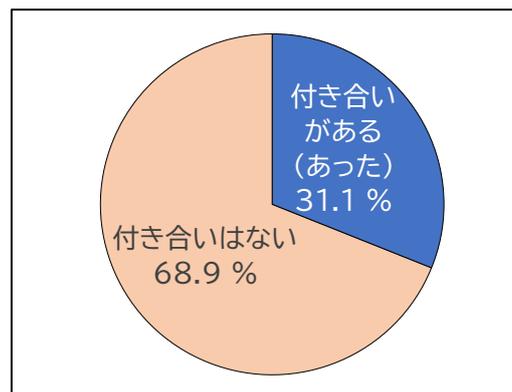
問5 問4で「会話したことがある」を選択された方におたずねします。  
どのような場面で会話しましたか。(回答チェックはいくつでも n=103)

項目	人数(人)	割合(%)
仕事場	42	40.8
近所付き合いやショッピングなど日常生活をしているとき	29	28.2
学校などの学びの場	24	23.3
趣味などの活動をしているとき	21	20.4
電車やバスなどで移動しているとき	8	7.8
その他	8	7.8



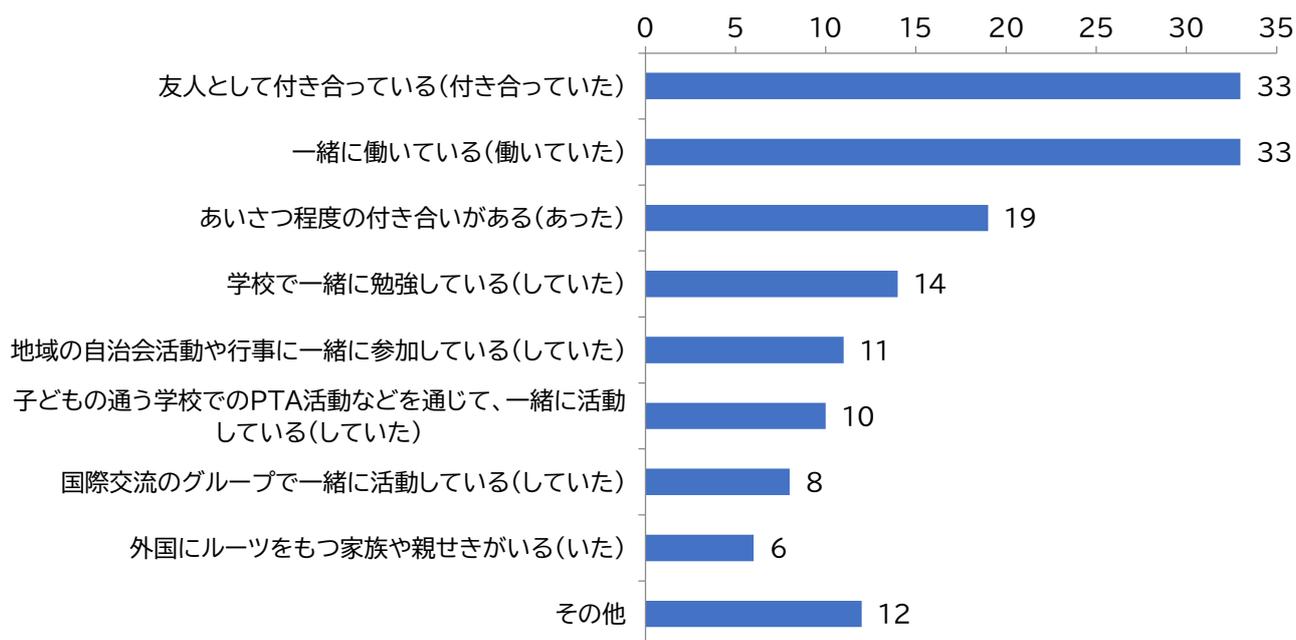
問6 あなたは外国人県民等と付き合いがありますか。  
 (過去の経験を含む)(n=267)

項目	人数(人)	割合(%)
付き合いがある(あった)	83	31.1
付き合いはない	184	68.9
合計	267	100.0



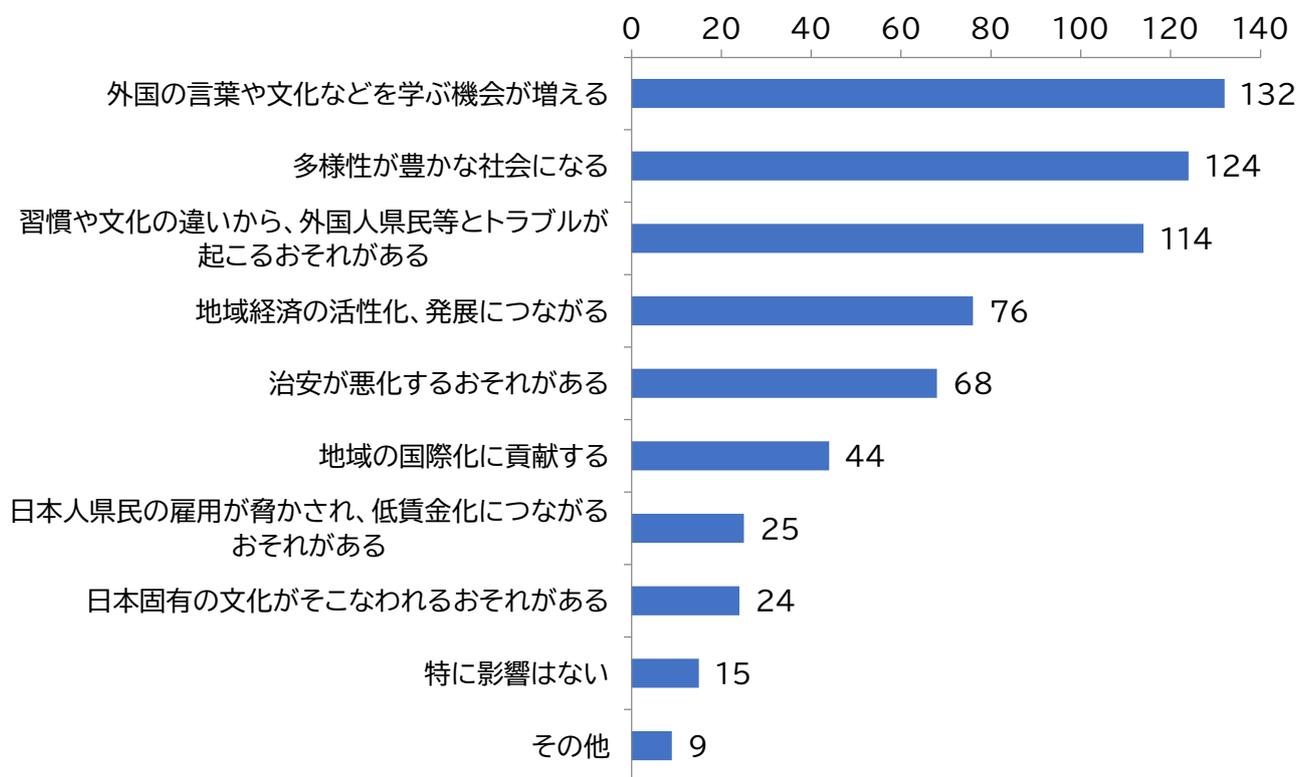
問7 「付き合いがある(あった)」を選択された方におたずねします。あなたは外国人県民等とどのような付き合いがありますか。(過去の経験を含む)(回答チェックはいくつでも。n=83)

項目	人数(人)	割合(%)
友人として付き合いしている(付き合いしていた)	33	39.8
一緒に働いている(働いていた)	33	39.8
あいさつ程度の付き合いがある(あった)	19	22.9
学校で一緒に勉強している(していた)	14	16.9
地域の自治会活動や行事と一緒に参加している(していた)	11	13.3
子どもの通う学校でのPTA活動などを通じて、一緒に活動している(していた)	10	12.0
国際交流のグループと一緒に活動している(していた)	8	9.6
外国にルーツをもつ家族や親せきがいる(いた)	6	7.2
その他	12	14.5



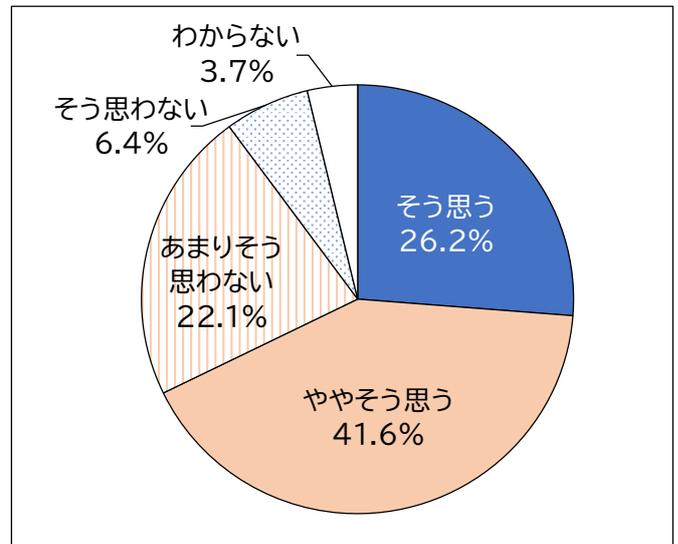
問8 あなたは、地域社会に外国人県民等が増えることについてどう思いますか。  
 (「特に影響はない」を選択した場合を除き、回答チェックは3つまで。 n=267)

項目	人数(人)	割合(%)
外国の言葉や文化などを学ぶ機会が増える	132	49.4
多様性が豊かな社会になる	124	46.4
習慣や文化の違いから、外国人県民等とトラブルが 起こるおそれがある	114	42.7
地域経済の活性化、発展につながる	76	28.5
治安が悪化するおそれがある	68	25.5
地域の国際化に貢献する	44	16.5
日本人県民の雇用が脅かされ、低賃金化につながる おそれがある	25	9.4
日本固有の文化がそこなわれるおそれがある	24	9.0
特に影響はない	15	5.6
その他	9	3.4



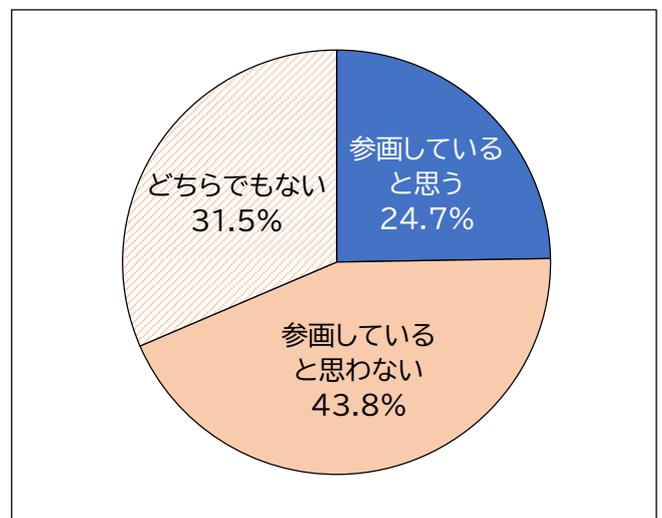
問9 あなたは、外国人県民等と地域社会や仕事場、学校、イベントなどで、交流や関わりを持ちたいと思いますか。(n=267)

項目	人数(人)	割合(%)
そう思う	70	26.2
ややそう思う	111	41.6
あまりそう思わない	59	22.1
そう思わない	17	6.4
わからない	10	3.7
合計	267	100.0



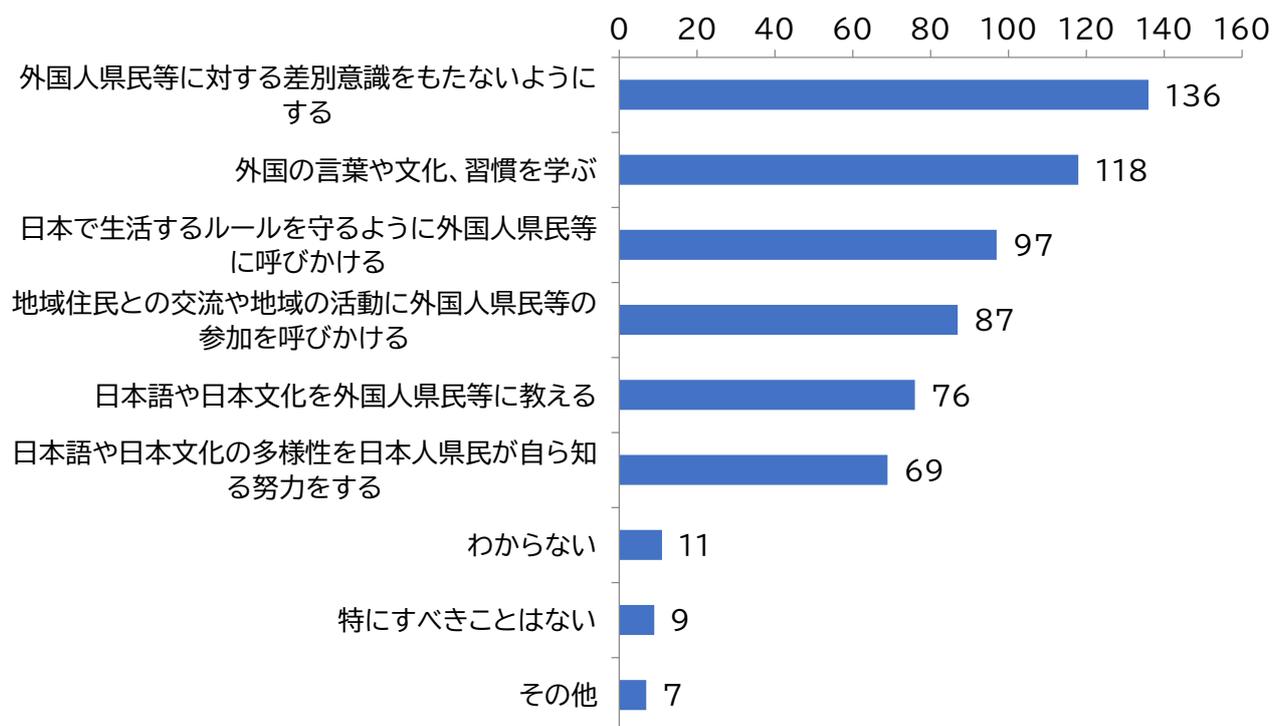
問10 あなたは外国人県民等が地域の一員として、地域の社会活動等(例:自治会などの地縁組織の活動、祭り等の地域行事、ボランティア活動など)に参画していると思いますか。(n=267)

項目	人数(人)	割合(%)
参画していると思う	66	24.7
参画していると思わない	117	43.8
どちらでもない	84	31.5
合計	267	100.0



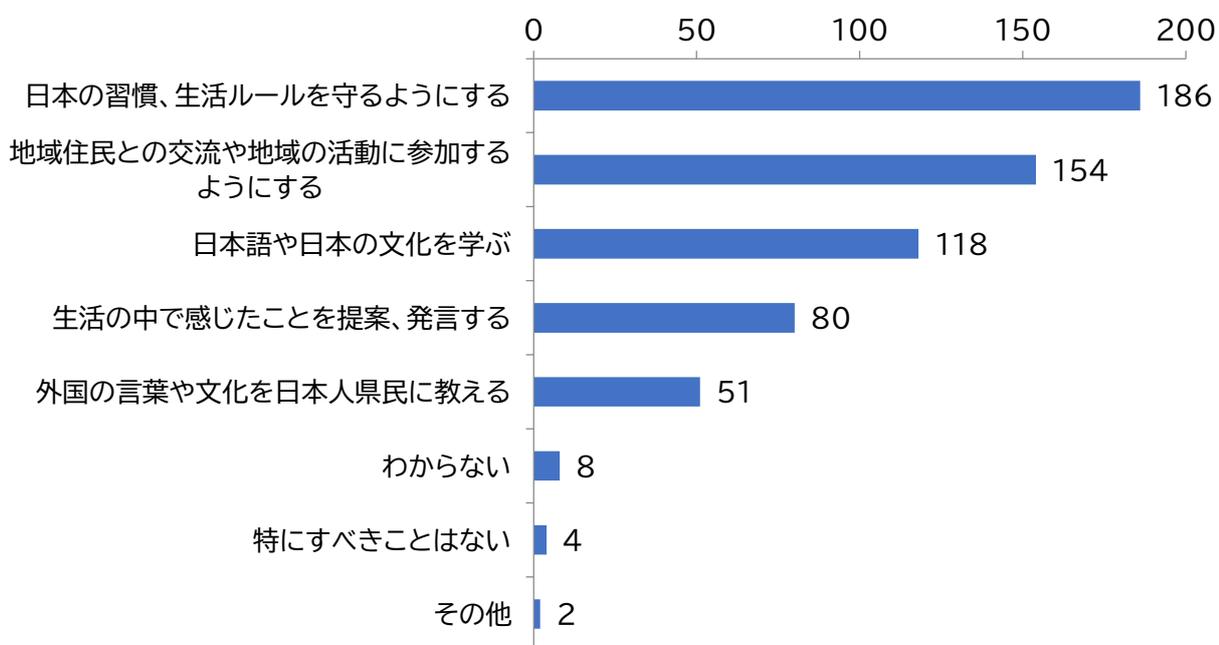
問11 日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし、活躍できる地域社会にしていくために、「日本人県民」は何をすべきだと思いますか。(回答チェックは3つまで。n=267)

項目	人数(人)	割合(%)
外国人県民等に対する差別意識をもたないようにする	136	50.9
外国の言葉や文化、習慣を学ぶ	118	44.2
日本で生活するルールを守るように外国人県民等に呼びかける	97	36.3
地域住民との交流や地域の活動に外国人県民等の参加を呼びかける	87	32.6
日本語や日本文化を外国人県民等に教える	76	28.5
日本語や日本文化の多様性を日本人県民が自ら知る努力をする	69	25.8
わからない	11	4.1
特にすべきことはない	9	3.4
その他	7	2.6



問12 日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし、活躍できる地域社会にしていくために、「外国人県民等」は何をすべきだと思いますか。(回答チェックは3つまで。n=267)

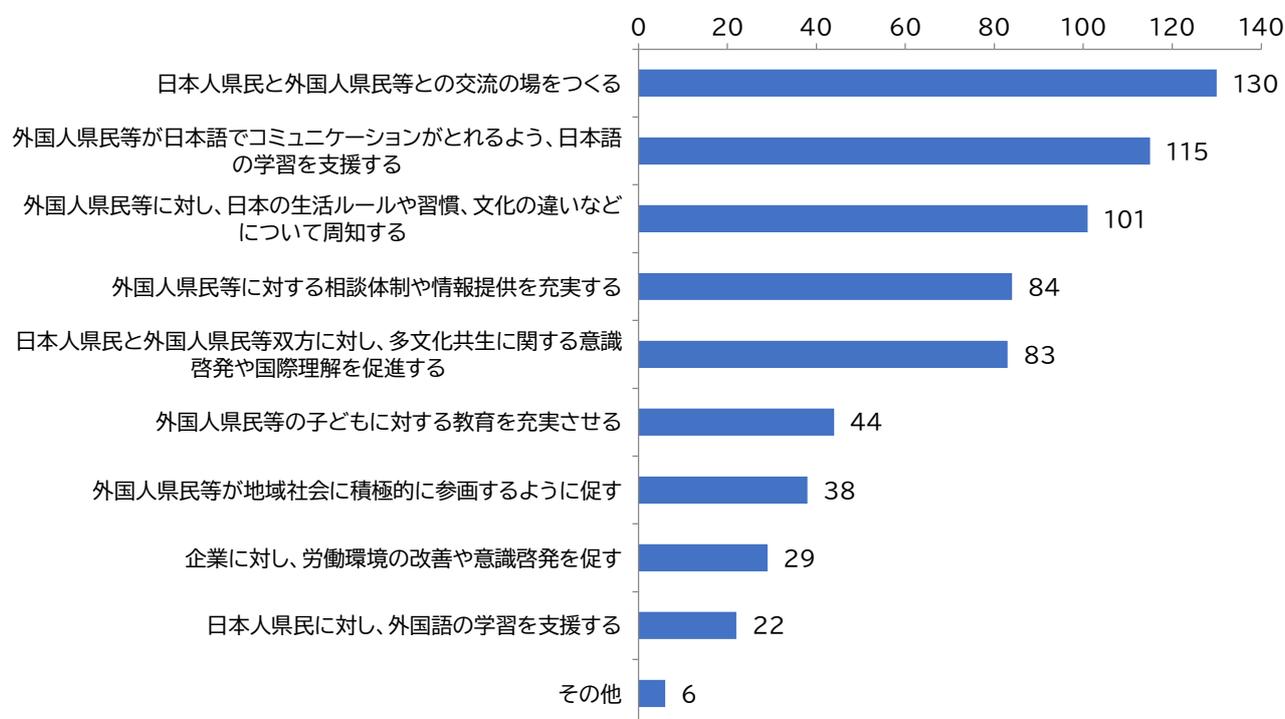
項目	人数(人)	割合(%)
日本の習慣、生活ルールを守るようにする	186	69.7
地域住民との交流や地域の活動に参加するようにする	154	57.7
日本語や日本の文化を学ぶ	118	44.2
生活の中で感じたことを提案、発言する	80	30.0
外国の言葉や文化を日本人県民に教える	51	19.1
わからない	8	3.0
特にすべきことはない	4	1.5
その他	2	0.7



問13 日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし、活躍できる社会にしていくために、県や市町などの行政は、どのような取組に力を入れるべきだと思いますか。

(回答チェックは3つまで。 n=267)

項目	人数(人)	割合(%)
日本人県民と外国人県民等との交流の場をつくる	130	48.7
外国人県民等が日本語でコミュニケーションがとれるよう、日本語の学習を支援する	115	43.1
外国人県民等に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する	101	37.8
外国人県民等に対する相談体制や情報提供を充実する	84	31.5
日本人県民と外国人県民等双方に対し、多文化共生に関する意識啓発や国際理解を促進する	83	31.1
外国人県民等の子どもに対する教育を充実させる	44	16.5
外国人県民等が地域社会に積極的に参画するように促す	38	14.2
企業に対し、労働環境の改善や意識啓発を促す	29	10.9
日本人県民に対し、外国語の学習を支援する	22	8.2
その他	6	2.2



問 14 外国人県民等と日本語でコミュニケーションが取れず困った経験があれば、その内容をお聞かせください。(抜粋)

- ・お互いの共通言語がなく、機械翻訳を頼りに会話をしたことがあります。そこで難しかったのが、その方がこどもの一時保育を希望していて一緒に保育園を探すことになったとき、日本人でも理解が難しいような複雑な手続きを説明するのが難しかったです。
- ・英語以外の言語は、全く習ったこともなく、日本語と英語ができない外国の方とはコミュニケーションが難しかった場面があります。小学校の朝の立ち番のやり方を説明する際に、ジェスチャーと簡単な英語で、何とか伝わりました。
- ・英語圏ではない外国人に対してのパンフレットが少ないと思う。(ゴミ出しカレンダーなど)
- ・外国人県民と日本語でコミュニケーションを取る機会は、スーパーや飲食店での会話しか経験なく、紹介できる事例はありません。
- ・外国人県民と日本人県民が共生するためには、互いの文化や価値観を知り、できるだけ互いを尊重することが大切である。日本人県民は簡単な日本語でコミュニケーションをとる努力をし、外国人県民には日本で生活するために最低限求められるルールや言葉を知る機会や環境を整えることが重要であると思う。
- ・外国籍の自閉症児童が養護学校のスクールバスやクラス、ホリデースクール中にパニックになり、解決の為の話し合いが上手く出来なくて孤立してしまった。普段の会話はある程度意思疎通出来るご家庭だったけど、自閉症に特化した会話は通訳を介しても難しく、私自身も力になれなくて未だにずっと残念に思っている。
- ・教師として働いていた時に、教室に日本語がわからない子どもがいた。英語も通じないため、意思疎通が難しかった。必要なプリントは Google 翻訳で翻訳して作り、渡していた。35人程度のクラスでその子だけに時間を割くことは実際には難しく、いつも悩んでいた。
- ・勤務先にブラジルやベトナム、ミャンマーの方が派遣社員として勤務しているし、インドネシア技能実習生もいて、みんな大切な働く仲間であるが、細かいニュアンスが伝わらないことが多い。
- ・湖南地区で最近増えてきたベトナムの方々。日本語が通じないうえ、英語も全く通じないので、日本のルールやマナーを伝える術がない。コロナ禍の最中、ノーマスクでスーパーで大声で話しながら買い物をしていたベトナム人団体を注意しても無駄でした。
- ・国勢調査の時に、片言の日本語しか喋れない方がいて、説明が難しく翻訳アプリを使って何とかコミュニケーションが取れた。
- ・困ったときは、市役所の通訳者をお願いして伝えてもらうようにしている。しかし、ベトナム語通訳者が出勤しているのが毎日じゃないから困ることがある。

- ・仕事で外国人と接する機会が多いが、日本語や日本文化を全く理解していないため意思疎通が図れず苦勞する。日本で生活しているのなら日本のルールを守ってほしい。
- ・子供の保育園に、ベトナムの子がおり、その保護者と挨拶をする仲ではありますが、日本語・英語も得意で無いようでそれ以上コミュニケーションが取れず寂しく思います。他のクラスでも日本語がわからない子がおり先生が英語で対応などしているようです。
- ・私の住んでいる湖西地域には外国人県民が少ないので、そもそも外国人県民の方々と接する機会がほとんどありません。しいて言えば近くの市営住宅に数世帯住んでおられますが、会話を交わすことはありません。
- ・自治会の清掃活動など、無断欠席が多く、持ち回りの会計役員をあてるか免除するかで議論になった。
- ・自治会加入勧誘で相手が内容の理解ができない。そもそも自治会はなぜあるのかが相手が理解できない。近隣日本人でも加入してない人がいる中で、こちらにも説得力がない。言葉が通じにくく、ゴミ出しのルールが守れない。
- ・周りにいないので困ったことがない。
- ・日系ブラジル人との付き合いしかないが、彼らは能力的に厳選されて来日している節がある。問題は、日本で育った子どもたちである。行政は、教育と生活支援に惜しみない対応をお願いしたい。言葉が分からず、孤立している子どもが危険だ。
- ・隣人が外国人ですが、私の英語の語彙力がないこと、日本語で話しかけても良いか迷い、うまくコミュニケーションが取れません。

問 15 その他、日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし活躍できる地域社会についてご意見がありましたらお聞かせください。(抜粋)

- ・「外国人の方主体」で、自分の国を紹介できるイベントをすると良いと思います。言葉の講座、料理のイベントや販売、文化を体験できるなど。それが外国の方の仕事や収入に繋がればもっと良いと思います。
- ・ゴミ出しのルールがわかりにくい(日本語でも難解)ので、ルールをより簡易化、多言語対応してほしい。ゴミ捨てのルールを守ってもらえず結果的にゴミステーションの掃除をすることになるのは地域住民なので、不満になると思う。
- ・つたなくても話し合いコミュニケーションをとることで解決できることは多い。日本人対外国人ではなく、人対人としてわかり合おうとするところから始める。そういう初心を忘れずにいることが大切だと思う。
- ・もうずいぶん前から介護施設での外国の方の明るく・親切な対応ぶりに感謝している。介護でも訪問系のお仕事は文化の違いなどでちょっと難しいが 勉強熱心で明るい方にどんどん仕事ができるような施策が欲しい。大津市では 外国人の介護職の方への支援が決して十分ではないように思う。
- ・外国の方に日本語を教えるボランティアを育成すべきだと思います。また、外国移住者が安心して住まえる不動産を提供する窓口も行政として整えると良いと思います。
- ・外国人が増えるに比例して地域の環境が劣化していく。日本のルールが理解できない外国人は定住を拒否してもらいたい。
- ・外国人と日本人が同じコミュニティで生活する場合、日本人の側がある程度妥協する必要があるが、外国人も日本の習慣、慣習、ルールに馴染んで、双方、納得出来ないと、共存共栄は難しいと思う。
- ・外国人は、自国民で集団行動化している場面が散見される。傍目で見ていると不安に感じる場合が多い。また集団化していると行動が大胆になり、閉鎖的になると懸念します。地域の貢献活動など日本人と交わる機会を行政や企業側は積極的に作ることが大事。
- ・外国人を雇用する企業の責任として、日本のルールだけではなく一般的なマナーまで、しっかりと教育する時間と機会を設けるべきだと思う。企業の経営陣が、外国人という賃金の安い労働力を期待するならば、教育は然るべき責務だと考えます。地域住民との交流は全く期待しません。
- ・外国人県民に対して、行政機関が行政・公共サービスについてきちんと理解できるように多言語で情報を発信する。共通言語でコミュニケーションが取ることが困難で職場以外では孤立してしまうケースもあると思うので、地域住民同士がコミュニケーションをとれる場所や機会(イベント)などがあればいいと思う。
- ・言葉の壁は翻訳アプリや機器を利用してコミュニケーションをとれば良いかと思う。

- ・昨今国際社会、外国人移民など言われていますが、私個人の考えは積極的な受け入れはすべきではないと思っています。理由としては、日本は他の国にはない価値観が多く、その価値観を日本に来た方が必ずしも守るとは限らないからです。日本の価値観が好きで来た方は良いですが、日本に来ることで利益があるからと来られた方は脅威になると思います。まずは外国人を受け入れることより日本人が生活し易くなること、日本人が滋賀で生活し易くなるにはとすることを行政には考えていただきたいです。
- ・仕事場からいきなりなくなる、連絡が取れなくなりそのまま退社という事例も聞きます。無許可で滞在している不法滞在者が治安を乱す一助となっている節があるので、取り締まりを強化してほしい。
- ・私は立命館大学草津キャンパスの近隣に住んでおり、週二回はプールや教室で授業に参加しています。外国人留学生との出会いもあり、最近では中国は勿論、ナイジェリア、カザフスタンの大学院生とも出会い、会話を楽しんでいます。みんな礼儀正しくいい子ですよ。いつも元気をもらっており、こちらもできるだけだけの情報を提供しようと思っています。
- ・自治会への加入のお願いをするとき、東近江市のホームページにポルトガル語の説明文書があったので利用したことがある。こういった翻訳文書があると助かります。
- ・地域の防災訓練に参加する。
- ・徒歩圏内に福音教会があり、週末は駐車場もいっぱいのにぎやか！なのに、普段生活しているとまったくすれ違いもしないのが不思議。学校にもいないしスーパーにもいない。電車の中でもみない。どうしたら地域に参加してもらえるのか、そもそも普段どこにいるのかわからなくて難しい。
- ・日本で生活するなら、最初にある程度の日本人の習性、考え方など、違いを知っていただいたほうが、暮らしやすく、トラブルも少なくできると思います。
- ・子どもが学ぶ学校の教育現場では、人権理解や情報が更新されていて、そこに関わる人の意識は随分進んできていると思う。その一方で、子どもが義務教育を終えたら、大人の学ぶ機会は随分減り、意識に格差が生じているように思う。その為か、地域の中でゴミ出しなど出来ないと、外国人だから言っても無駄、と迷惑がる人が身近に多いと感じている。
- ・日本人は中南米や東南アジア出身の外国人県民に対して、出稼ぎ外国人という意識で蔑んで見ていることが多いと思います。それは文化の違いや生活習慣の違いに対する偏見だけでなく、彼らの多くが技能実習生や母国への仕送りのために就労ビザで来日し、日本人が嫌がるいわゆる3Kの仕事についていることへの偏見からきていると思います。日本は働き人口が急激に減少していくなかで、今後この外国人に依存する傾向は益々顕著になっていくと思います。であれば、日本人の意識を変え、そしてそのためには教育の現場で子供達にしっかりと多文化共生の意識を教育して、近未来には外国人ということすら意識しない大人になってくれることが必要かと思っています。